別紙１

第１回文化振興審議会での主なご意見

１　評価報告書をもとにいただいたご意見

【今の芦屋市の文化政策に足りないもの】
→　都市戦略として課題を把握し，将来的なことを見据えた新規事業もしくは，プロジェクト型等の事業の必要性。（産業振興等に向けたプロデュース人材の開発）

【文化振興審議会のご意見】

評価報告書から見える現状の課題	今後の進むべき方向
○職員の方自身が評価について，何が自分たちの欠けている部分で何をしなければいけないのか，どう変えていかなければいけないのか，常にあり方を考えていくための材料として活用すること。次の一歩を踏み出すための素材とすることが重要。 ○今の芦屋の抱えている課題を解決克服していくためにはこの事業をこう活用しようという課題設定が本当は必要だが，それが全般的に薄い。課題設定ができていない。 ○前例踏襲主義というか，既存のものをどう残していくかという観点の記載が多い。 ○新規事業という観点に立つと，これはＰＤＣＡからは出てこない。既にあるものを評価することはできるが，今現にないものを新しく提案するというのは違う次元の話。 ○市長部局で所管し，展開していくべき事業部門や開発するべき政策部門が，まだ開発されてない。 ○どんな楽しい事業を興しますか，あるいはこれやめましょうか，というところまで踏み込んでいない。	◆将来的なビジョンを踏まえた企画とか展開があってもいい。 ◆新規事業をもっと増やしてほしい。 ◆芸術文化の場合は，未来を見据えてするので新しいプロジェクトをどうつくりだしていくかという方向がすごく重要。 ◆伝統的な市民文化政策の安定的な確保はできているようには思うが，都市発展戦略，産業振興までつながっていくような挑戦的な政策の可能性。 ◆産業はどれぐらい振興したのか，市民の皆さんはどれぐらい豊かな文化的な体験ができたか，というあたりを文化事業とくっつけていくかというのは，考えなければいけない。 ◆アウトプロデューサー集団をとつくらないといけないのではないか。プロデュース能力を持った人材を開発しなければ，アーティストと鑑賞者ばかりを応援していても，つなぐ人がいない。芦屋がこれまでなかなか前へ進まないというのは，それが原因ではないのか。

２　アンケートについていただいた主なご意見

① 文化政策の方向性について

◆文化のジャンルについて範囲を広げる。

◆あらゆる世代にアンケートし，需要と供給のギャップを明らかにする。

【文化振興審議会のご意見】

◎ 都市政策として芦屋の誇り，プライド，アイデンティティーをはっきりさせていくとするならば，これを突出させようという決断を計画の中で述べるべき。

◎ アンケートを，現場の学芸員の方，あるいはクリエーターの方，インディペンデントの人たち，そういった芸術活動と労働の観点で，つくる側にとるのもいい。他にも女性目線とか，もう少しやわらかいソフトランディングできるような，例えば文化的資産とか人物，芸術文化のジャンルのことばかりなく，ファッションとか飲食など，デザイン的なブランド戦略みたいな視点を項目に入れていくといいのではないか。

◎ 芸術に触れるとか文化に触れるというのは人権です。芸術的人権保障という視点に立ったときに，ゼロ歳児から育児段階の親御さんとか，小学校低学年とか幼稚園児とか保育所児とか，そういう人たち，その子供たちに対してどういう供給実態になっているのかを考えなければ，将来を見越した投資政策ができない。

◎ こども園の園長さんに集まってもらって，その人たちの意見を代理的に聞くとか，幼稚園連合会の会長たちに意見を聞くとか。あるいは，行政が幼稚園やこども園に，どういうサポートをすれば非常に助かりますかと，特に文化の面ではということを聞けば，こういうことが助かりますと言ってくれる可能性が高い。小学校も同様。

◎ ゼロ歳から１００歳まで，ありとあらゆるところへアクセスできるような仕組みが，芦屋にはあることを証明しましょう。そういう形で体系づければ，これだけ供給している機関がありますよ，事業がありますよと示せばいい。もし欠落があるとするならば，それを新規事業で興しましょう。

② アンケート実施に当たっての留意点

◆若者に対する意見集約の方法を検討すること。

【文化振興審議会のご意見】

◎ 社会調査をするとき，若者は本当にレスポンスが少ない。今，若者はマイノリティーになっていて，どこでも年齢の上の人たちがマジョリティーで，肩身が狭い。平等の立場で１０代，２０代，３０代って均等に意見を言っていると思わないで，若者はもう既に，特に文化の分野ではマイノリティーになっているから，よほど慎重にアプローチしていかないと酌み取れない。

◎ ラ・フォル・ジュルネという滋賀県の音楽祭では，２日間で約３万人来る。普通は美術館も博物館もコンサートも７割ぐらいが６０歳以上だが，ラ・フォル・ジュルネでは逆転して１０代，３０代がすごく多かった。もう１つ突っ込んで見たときに愕然としたのは，２０代が１％しかいなかった。つまり，大学生など２０代というのは，いかに文化から遠いかということ。人とのコミュニケーションができない１０代，２０代をどう引っ張り出すか。どう文化の力で変えていくかが大きな課題。そこを重点的に支援できるような施策ができるかどうかというのが，ポイントになるのではないか。

③ 意識調査の設計について

◆アンケート（無作為抽出による意識調査）とヒアリング（個別）を実施。

◆ヒアリングをもとに，アンケートの内容を設計する。

【文化振興審議会のご意見】

	考え方	対象者・対象分野 調査項目・目的　など
意識調査の全体設計	◎社会マーケティングだと考える。 ◎アンケートに加えてヒアリングなど，両方あったほうがいい。アンケートではなかなか新しいことが出てこない。 何か人にものを問うということは問う人が何を考えているかということの広報なので，何の戦略もなしにアンケートはできないはず。 ◎分野別調査を行う。 ◎アートや芸術文化，条例で言っている文化の範囲全てをどのぐらい供給できているのかという調査と，住民側がどれだけの需要を持っているのか，潜在需要を持っているのかを調べないといけない。	◎ファッションや料理，お菓子やパティシエとかの存在がどれだけあるのかなど，そういうものを含めて文化活動とみなして，リサーチしてほしい。建築も入っていい。 ◎どういう事業が要望されているか，どこに欠落があるか，チャンスが切れている層があるか。 ◎これからの芦屋が進むべき方向を導き出すための，求められている文化事業，文化政策は何かということが出てくるようにしたらどうか。

④ 個別ヒアリング実施の考え方

◆調査を次の事業に結びつけていく。（無作為抽出による市民アンケートの補完的役割）

◆分野別にヒアリングを行い，アンケートを設計するための基礎資料とする。

【文化振興審議会のご意見】

◎ 市民プロデューサー的な人たちを育成していく時期になるんじゃないかという話も出ていたが，そういう方々がたくさん居住されている土地柄なので，人材を発掘できるような調査を行うべき。

◎ 衣食住，それと遊，その４つにかなりの分野が含まれる。分野別でアンケートをすることは今の芦屋市に非常に大事。無作為抽出のアンケートは，具体的に推進していく力になり得ていない。

	調査対象	調査項目
個別ヒアリング	◎アートシーンとかいろんな社会ビジネスとか，そういう活動している方。 ◎ギャラリーとかライブハウスとかバーとかカフェとか，そういうところにいろんな方が出入りしていると思うので，そういうところの情報をとりにいくことも必要ではないか。 ◎特に若い世代にインディペンデント（独立系）でクリエイティブな仕事をして食べていく人がものすごく増えてきているという印象がある。そういうタイプの方々が芦屋の場合どれだけいるのかを探していくことも大事。	◎次の５年間で芦屋でのろしを上げるとしたらどんなことがあるだろう。 ◎プロジェクト型でどういうおもしろいことができるか。 ◎文化遺産とは物だけではなく，風景などで考えてもいい。アートプロデュースで考えた場合，芦屋でどういう場所があるかなど，質問していくといいのではないか。アートプロジェクトは物を見るだけではなく，散歩するのもアートのような形もあるし，事例を踏まえて，新しいタイプのプロデュースの仕方という観点を入れてもおもしろいのではないか。 ◎また，そういう方々の力を市の仕事にも活かせるようなコンペの仕方をするとか，それも文化政策の重要な部分の１つでもあるので，それを意識してもらいたい。

⑤ 市民意識調査（無作為抽出による市民アンケート）実施の考え方

◆市民への発信の意味も含めて，市民意識調査を実施する。

【文化振興審議会のご意見】

◎ アンケートをとるという行為自体が，実は行政が何を考えているかということの広報。

	調査項目	結果の活用方法
市民アンケート	◎こういうことをやろうと思っているが，それは足りているか足りていないか，一緒に乗るか乗らないかと聞くのが１つの方向。 ◎例えばアートプロジェクトが全国各地で展開しているが，アートプロジェクトの原形は芦屋発信。一回りして，芦屋はまたそのアートプロジェクトみたいなものの最先端に立ちたいと思っている市民がいるのかどうかとか，先端的なところに食いついてくる市民とか学生がどのくらいいるか。 ◎市街地が連担して神戸と大阪という大都市がある立地条件にあるので，自分の市だけ見ていて市内のミュージアムに何回行きましたかということだけ聞くのではなくて，例えばこの１年間で何回コンサートに行きましたか，それはどこですか，というようなことがアンケートでわかったらいい。 ◎地域別にどうなっているのか。偏在しているか。不公平になってないかなど，地域別偏差を調べたほうがいい。	◎今の新しいトレンドをどう吸い上げていくか。 ◎芦屋市民が芦屋市内のプラットフォームで得ているサービスと，阪神間全体で得ているサービスが見えると戦略も立てやすい。 ◎他市との連携というのはかなり積極的に戦略的にしないと，芦屋だけである程度満足させていくことは非常に無理がある。連携を積極的に進めることは大切。